

(別添2)

事業評価の結果（内容評価項目）

福祉サービス種別 通所介護

事業所名（施設名）

望月デイサービスセンター駒

第三者評価の判断基準

- a・・・着眼点をすべて実施している状態
 - b・・・着眼点が一つでも実施していないものがある状態
 - c・・・着眼点を一つも実施していない状態
- 実施していない状態
 実施している状態

評価対象	評価分類	評価細目	評価	着眼点	特記事項 (着眼点以外の取組等)
A	1 支援の 基本	① 利用者一人ひとりに応じた一日の過ごし方ができるよう工夫している。	a	<ul style="list-style-type: none"> ■ 1 利用者の心身の状況、ADL、睡眠・食事・排せつ、暮らしの意向、これまでの環境（物的・人的）、生活習慣等の把握をしている。 ■ 2 利用者一人ひとりの暮らしの意向を理解し、利用者一人ひとりに応じた生活となるよう支援を行っている。 ■ 3 利用者一人ひとりに応じた生活となっているかを検討し、改善する取り組みが組織的に継続して行われている。 ■ 4 サービス提供場面において、自立に配慮した援助を行っている。 ■ 5 自立、活動参加への動機づけを行っている。 ■ 6 利用者の趣味、興味、希望を把握し、活動に反映するとともに複数のメニューを用意している。 ■ 7 家族、ボランティアや地域住民の参加を得ることなどにより、活動の多彩化を図っている。 ■ 8 買い物、外出、地域の行事への参加など社会参加に係るプログラムを導入している。 ■ 9 利用者の家庭での生活、心身の状況を考慮し、利用者一人ひとりに配慮して活動に参加できるよう工夫している。 	法人の介護理念に利用者が社会的関係を維持し自律的な日常生活を営めるよう支援することと利用者の主体性を引き出すことが掲げられている。今年度の事業所の重点目標にも利用者の出来ることを認め生きがいにつながるケアを提供することが盛られており利用者の心身の状況、生活習慣、暮らしの意向などを十分把握し利用者一人ひとりが生き生きと生活できるよう支援している。また、事業所として生活リハビリの推進も掲げ、機能訓練指導士、看護師、介護職員の一段のスキルアップを図るためリハビリテーション勉強会を毎月事業所内で行っている。事業所内のレクリエーションや趣味活動、行事、また、外出、買い物、外食なども取り入れ利用者一人ひとりの意向に沿っている。

評価対象	評価分類	評価細目	評価	着眼点	特記事項 (着眼点以外の取組等)
A	1	② 利用者一人ひとりに応じたコミュニケーションを行っている。	a	<ul style="list-style-type: none"> ■ 10 利用者の考えや希望を十分に聴き取れるよう、さまざまな機会、方法でコミュニケーションを行っている。 ■ 11 利用者の思いや希望を聴きとったり読みとったりして、その内容をケアに生かしている。 ■ 12 日常生活で援助を行う際に、コミュニケーションの重要性を認識し、話しかけている。 ■ 13 話すことや意思表示が困難など特に配慮が必要な人には、個別の方法で行っている。 ■ 14 利用者への言葉づかいに対する配慮や節度ある接し方がなされている。とくに自尊心を傷つけるような言葉づかい、幼児語の使用、指示的な言葉を慎んでいる。 ■ 15 利用者への言葉づかいや接遇に関する、継続的な検討や研修を実施している。 ■ 16 会話の不足している利用者には特に気を配り、日常生活の各場面でも話をしてもらえるようにしている。 ■ 17 利用者が話したいことを話せる機会を作っている。 	<p>全職員が自ら進んで行動に移し、利用者への配慮も行き届いており利用者の言葉や仕草で何か感じる事があればキビキビと即座に対応している姿を見ることができた。また、全職員に共通しているがハキハキとした言葉使いでケアに当たっていた。言葉が出にくい利用者もおり、表情や動作などから押し量り声がけもしていた。法人研修として「介護・接遇セミナー」を開き、言葉遣い等、基本の周知徹底が図られている。</p>
	2 身体介護	① 入浴介助、清拭等を利用者の心身の状況に合わせて行っている。		<ul style="list-style-type: none"> ■ 18 利用者の心身の状況や意向に合わせ、入浴形態・方法を採用し、入浴介助や清拭等の方法を工夫している。 ■ 19 入浴の誘導や介助にあたっては、利用者の尊厳や羞恥心に配慮し、環境・介助方法等の工夫を行っている。 ■ 20 入浴を拒否する人への誘導や介助方法を工夫している。 ■ 21 入浴前の浴室内の安全確認（湯温、備品等）を行っている。 ■ 22 脱衣室等の室温管理を行っている。 ■ 23 入浴後は、水分摂取、スキンケアを行っている。 	<p>一般浴槽と特殊浴槽を設置した浴室があり、一般浴槽にはリフトが設置され歩く機能が低下した利用者も安心して湯船に浸かり温まることができている。また、一般浴槽では全面の透明板ガラスを通して洒落た枯山水風の庭が望むことができ温泉気分が味わえる。特殊浴槽の浴室は広く、3台の浴槽が設置されている。入浴時、性別にこだわりを持つ利用者の方には同性介助で介助している。衣類の着脱や体を洗うことができる利用者には声掛けで促しをしていた。訪問調査時特殊浴槽で入浴をしていた利用者が歌が好きとのことで、職員が歌いだすと利用者の方も大きな声で歌い始め、浴槽のバーを握り締めていた手がゆるみ、体もリラックスしていくのが見てとれた。</p>

評価対象	評価分類	評価細目	評価	着眼点	特記事項 (着眼点以外の取組等)
A	2	①	a	<ul style="list-style-type: none"> ■ 24 入浴の可否の判断基準を明確にし、入浴前に健康チェックを行い、必要に応じて清拭等に代えるなどの対応をしている。 ■ 25 入浴介助を安全に実施するための取り組みを行っている。 ■ 26 浴槽は、機械浴、リフト浴、一般浴、個浴等、いくつかの種類が用意されている。 ■ 27 シャワーチェア、その他の介護機器が用意されている。 ■ 28 利用者が自力で入浴できる場合でも、安全のための見守りを行っている。 ■ 29 感染症、心身の状況や意向等を踏まえて入浴順の配慮を行っている。 ■ 30 家庭での入浴を安全で適切なものとするため、利用者・家族に助言・情報提供している。また、助言した内容等については、必要に応じて、介護支援専門員等に報告・連絡している。 	
		② 排せつ介助を利用者の心身の状況に合わせて行っている。	a	<ul style="list-style-type: none"> ■ 31 利用者の心身の状況や意向を踏まえ、排せつ介助の方法を工夫している。 ■ 32 排せつの自立に向けた働きかけをしている。 ■ 33 必要に応じ、尿や便を観察し、健康状態の確認を行っている。 ■ 34 排せつの誘導や介助にあたっては、利用者の尊厳や羞恥心に配慮し、環境・介助方法等の工夫を行っている。 ■ 35 利用者が気兼ねしないように手際よく、必要に応じて声かけを行いながら介助している。 ■ 36 トイレ（ポータブルトイレを含む）は、衛生や臭いに配慮し、清潔を保持している。 ■ 37 冬場のトイレの保温に配慮している。 	<p>トイレ前の廊下からは2ヶ所のトイレ内部が場合によっては見えることからカーテンをすばやく使い配慮に努めるなど、プライバシーの確保を念頭に置き、利用者の心身の状況や意向を踏まえ職員は自然な流れでトイレ誘導をしていた。職員は利用者一人ひとりの排泄パターンを把握しているため、声掛けや誘導の仕方も適切であった。パットやリハビリパンツ等の使用に当っては利用者や家族等の希望に沿って対応しており、基本的には家庭での排泄時と同じように利用者に適したものを使用している。</p>

評価対象	評価分類	評価細目	評価	着眼点	特記事項 (着眼点以外の取組等)
A	2	②		<ul style="list-style-type: none"> ■ 38 トイレ内での転倒、転落を防止する等、排せつ介助を安全に実施するための取り組みを行っている。 ■ 39 おむつ・おむつかバー、便器等は、利用者に適したものが使用できるよう準備している。 ■ 40 おむつ交換を行う際には、皮膚の観察、清拭等を行っている。 ■ 41 尿意・便意の訴えやおむつ交換の要望に対して、できる限り早く対応できるようにしている。 ■ 42 家庭での排せつを安全で適切なものとするため、利用者・家族に助言・情報提供している。また、助言した内容等については、必要に応じて、介護支援専門員等に報告・連絡している。 	
		③ 移乗、移動を利用者の心身の状況に合わせて行っている。	a	<ul style="list-style-type: none"> ■ 43 利用者の心身の状況、意向を踏まえ、できるだけ自力で移動できるよう支援を行っている。 ■ 44 移乗・移動の自立に向けた働きかけをしている。 ■ 45 移乗・移動の介助の安全な実施のための取り組みを行っている。 ■ 46 使用している福祉用具が、利用者の心身の状況に合っているかを確認している。 ■ 47 福祉用具に不備はないか等の点検を常時行っている。 ■ 48 移動に介助が必要な利用者が移動を希望した際に、できる限り早く対応できるようにしている。 ■ 49 移乗、移動している本人だけでなく、他の利用者の安全にも配慮している。 ■ 50 車イスや杖などを利用する場合に、移動しやすい環境整備を行っている。 ■ 51 利用者の心身の状況に合わせた福祉機器、福祉用具を準備している。 	歩行器や車椅子などはサイズや機能、使い勝手、利用者の身体状況、家庭環境などに合わせ選択し使用している。利用者の中には補助用具を使うことで心身の健康を取り戻した方もいる。利用者の送迎時の感想として「ドライブができ、何軒か回って乗合うがいろいろな風景を見ることができて楽しい」との意見も聴かれ、運転手や乗降を支援する職員の安全確保についても十分に配慮がされている。事業所内のスペースもゆったりとしており車イスのすれ違いにもゆとりがある。

評価対象	評価分類	評価細目	評価	着眼点	特記事項 (着眼点以外の取組等)
A	2	③		<ul style="list-style-type: none"> ■ 52 送迎サービスは、心身の負担軽減、利用者の希望、安全に配慮しながら実施している。 ■ 53 家庭での介護を安全、適切に行うため、利用者・家族に移乗、移動に関しての助言や福祉用具の利用についての情報提供を行っている。また、助言した内容等については、必要に応じて、介護支援専門員等に報告・連絡している。 	
		④ 褥瘡の発生予防を行っている。	a	<ul style="list-style-type: none"> ■ 54 皮膚の状態確認、清潔の確保の方法など、褥瘡の予防について、標準的な実施方法を確立している。 ■ 55 利用者の心身の状況に応じた体位変換や姿勢の変換を行っている。 ■ 56 必要に応じ、マッサージの実施、軟膏等の塗布を行っている。 ■ 57 傷や皮下組織のずれが起きないように安全に介助している。 ■ 58 標準的な実施方法について職員に周知徹底するため、研修や個別の指導等の方策を講じている。 ■ 59 家庭での褥瘡予防を適切に行うため、利用者・家族に助言や情報提供を行っている。また、助言した内容等については、必要に応じて、介護支援専門員等に報告・連絡している。 	必要とする利用者は機能訓練指導員と看護師によるマッサージを利用時に受けている。また、体調の優れないときや昼寝の折に皮膚疾患のある方や肌のトラブルが起こりやすい方には体位交換等のサービスを提供している。
3	食生活	① 食事をおいしく食べられるよう工夫している。	a	<ul style="list-style-type: none"> ■ 60 利用者の希望や好みを聴き、献立に反映させている。 ■ 61 食材に旬のものを使用するなど、献立に変化をもたせるよう工夫をしている。 ■ 62 料理にあった食器を使ったり、盛り付けの工夫をしている。 ■ 63 適温で食事を提供している。 ■ 64 利用者の状況に応じた、食堂の雰囲気づくりを工夫している。 	食事に関しては外部の事業者へ委託しており、嗜好調査も随時行われ、苦手なものや制限のあるものは他の食材に変更して提供されている。利用者が手伝い主菜やおやつなどを作ることもある。調理室横にはお茶コーナーが設置されており、コーヒーや紅茶などをいつでも飲むことができる。職員は利用者と同じテーブルに着き同じ食事をしている。担当する利用者は決まっていないが、介助が必要な利用者の横に業務の都合に合わせて職員が次々に着席し、利用者に話し掛けながら食事する姿をみることができた。一汁三菜のメニューは味も良く適温での料理で、利用者や職員からも食事が楽しみだとの声が聞かれた。

評価対象	評価分類	評価細目	評価	着眼点	特記事項 (着眼点以外の取組等)
A	3	①	■	65 座る席や一緒に食べる人について利用者の意向を聞き、テーブルや席の配置を配慮している。	ホールの天井も高く広々としたゆとりのスペースで食事が摂れている。
		② 食事の提供、食事介助を利用者の心身の状況に合わせて行っている。	a	66 利用者の嚥下能力に合わせた飲み込みやすい食事（形状や調理方法）を工夫して提供している。 67 利用者自身で行える範囲を把握し、自分でできることは自分で行えるよう支援している。 68 できる限り利用者のペースで食べられるように工夫するとともに、利用者の身体に負担がかからないよう配慮している。 69 嚥下しやすいようにできるだけ座位をとるなど、利用者の食事時の姿勢に常に配慮している。 70 誤嚥、喉に詰まったなど食事時の事故について、対応方法を確立し、日頃から確認、徹底している。 71 食事、水分の摂取量を把握し、食事への配慮、水分補給を行っている。 72 栄養士や医療スタッフと連携し、利用者の心身の状況に合わせ、栄養面・形態に配慮した食事を提供している。 73 経口での食事摂取が継続できるようにするための取り組みを行っている。 74 家庭での食事や水分摂取に関して、利用者・家族に助言や情報提供を行っている。また、助言した内容については、必要に応じて、介護支援専門員等に報告・連絡している。	利用者一人ひとりの身体機能にも細かく配慮し食事形態も個別に対応している。コーヒー・紅茶はいつでも飲むことができるが昼食時はほうじ茶や緑茶が殆どで水分補給に関しても職員が声掛けで促し、強制することなく普通会話の中で飲んでいただいていた。食事委員会があり旬の食材を取り入れたり、敬老のお祝いの御膳などもメニューとして組み込み、食事がさらに楽しみのものとなるよう検討を重ねている。
		③ 利用者の状況に応じた口腔ケアを行っている。		75 利用者の口腔清掃の自立の程度を把握している。 76 一人ひとりに応じた口腔ケアの計画を作成し、実施、評価・見直しをしている。 77 歯科医師、歯科衛生士の助言・指導を受けて、口腔状態および咀嚼嚥下機能の定期的なチェックを行っている。	口腔ケアの重要性については利用者にも話しをしており食事前の口腔体操や歯磨きなどを職員の指導の下実施している。歯科衛生士の資格を持つ職員を配置し、一人ひとりの利用者に応じて個別のサービス計画にも口腔ケアの計画を織り込んでいる。歯磨きを自らできる利用者はあらかじめ職員が洗面台に用意した歯ブラシで昼食後磨いていた。また、介助の必要な利用者も拒否することなく口腔ケアが生活の一部となっ

評価対象	評価分類	評価細目	評価	着眼点	特記事項 (着眼点以外の取組等)
A	3	③	a	<ul style="list-style-type: none"> ■ 78 口腔機能を保持・改善するための体操（口腔体操等）を行っている。 ■ 79 職員に対して、口腔ケアに関する研修を実施している。 ■ 80 食後に、利用者の状況に応じた口腔ケアおよび口腔内のチェックを行っている。 ■ 81 家庭での口腔ケアに関して、利用者・家族に助言や情報提供を行っている。また、助言した内容については、必要に応じて、介護支援専門員等に報告・連絡している。 	<p>ていることが窺えた。口腔ケアに関する外部研修にも参加しており情報を職員間で共有し実践に活かしている。</p>
	4 認知症ケア	① 認知症の状態に配慮したケアを行っている。	a	<ul style="list-style-type: none"> ■ 82 利用者の日常生活能力、残存機能の評価を行っている。 ■ 83 周辺症状を呈する利用者には、一定期間の観察と記録を行い、症状に合わせたケアや生活上の配慮を行っている。 ■ 84 あらゆる場面で、支持的、受容的な関わり、態度を重視した援助を行っている。 ■ 85 利用者が日常生活の中でそれぞれ役割（家事等）が持てるように工夫している。 ■ 86 職員に対して、認知症の医療・ケア等について最新の知識・情報を得られるよう研修を実施している。 ■ 87 医療スタッフ等との連携のもと、周辺症状について分析を行い、支援内容を検討している。 ■ 88 利用者一人ひとりの症状に合わせ、個人あるいはグループで継続的に活動できるよう工夫している。 ■ 89 抑制・拘束は行っていない。やむを得ず実施する場合には、必要な手続きをとっている。 ■ 90 認知症高齢者の家族会等家族支援のための会や、その他社会資源を家族に紹介している。 	<p>認知症に関わる法人研修や外部研修に参加し新たな知識や情報を得られるようにしている。朝、ある利用者が自宅から持ち寄った花やもみじの葉をホールのテーブルに飾るために女性数人で会話をしながらいくつかの手作り花器に活けるなど一日のメリハリをつけた活動も支援している。日中も各テーブルにいつものメンバーが座りあちらこちらで楽しい会話をしている光景がみられ、他の利用者と関わることで刺激を受け一人ひとりの利用者が生き生きと生きている。職員は送迎時に家族等と直接会話ができるので、それを絶好の機会と捉え、家庭での様子や事業所からの帰宅後の様子などを聴き日々の認知症ケアに活かしている。</p>

評価対象	評価分類	評価細目	評価	着眼点	特記事項 (着眼点以外の取組等)
A	4	<p>①</p> <p>② 認知症高齢者が安心・安全に生活できるよう、環境の整備を行っている。</p>	a	<p>91 認知症の理解やケアに関して、利用者・家族に助言や情報提供を行っている。また、助言した内容については、必要に応じて、介護支援専門員等に報告・連絡している。</p> <p>92 サービス利用時の様子を家族に伝えるなどして、より良いケアの方法を家族と共有するようにしている。</p> <p>93 利用者が安心・安全で落ち着ける環境となるよう工夫している。</p> <p>94 利用者の行動が抑制されたり拘束されたりすることのないよう、環境に十分な工夫をしている。</p> <p>95 危険物の保管、管理が適切に行われている。</p> <p>96 異食や火傷等の事故防止のため、片付け、清掃が行われている。</p> <p>97 共有スペースも、認知症高齢者が安心して過ごせる環境づくりの工夫を行っている。</p> <p>98 トイレ・風呂等、一目でわかるような表示をする等の工夫を行っている。</p>	<p>利用者がいつも集うホールは天井が高く、広々としたゆったりとしたスペースがとられており開放感が感じられる。足元にも危険になる物品はなく整理整頓が行き届いている。フロアのモップ掛けも食後、利用者の午睡の時間を使い気持ちよく過ごせるようにしている。</p>
5 機能訓練 介護予防		<p>① 利用者の心身の状況に合わせ機能訓練や介護予防活動を行っている。</p>	a	<p>99 一人ひとりに応じた機能訓練のプログラムを作成し、実施、評価・見直しをしている。</p> <p>100 介護予防活動も計画的に行い、評価・見直しをしている。</p> <p>101 日々の生活動作の中で、意図的な機能訓練・介護予防活動を行っている。</p> <p>102 利用者が主体的に訓練を行えるように工夫をしている。</p> <p>103 利用者の状況に応じて、専門職（理学療法士、作業療法士等※）の助言・指導を受けている。 ※ここで「等」は、言語聴覚士、柔道整復師、あん摩マッサージ指圧師、看護師を指す。</p>	<p>事業所の今期の重点目標にも全職員がリハビリテーションの学びを活かし、生活リハビリを推進することが掲げられ外部講師によるリハビリテーション勉強会が毎月組まれている。事業所には機能訓練指導員がおり必要とする利用者の機能訓練計画を作成し看護師とともに訓練を実施している。計画を必要としない利用者にもボールやビー玉、お箸など、身近な道具を使った生活リハビリを指導している。利用時に毎回受けている利用者から体が回復傾向になってきているとの声も聞かれた。日々の係わり合いの中で認知症状についても見極め、生活相談員を通じて担当のケアマネージャーとの連携を取っている。</p>

評価対象	評価分類	評価細目	評価	着眼点	特記事項 (着眼点以外の取組等)
A	5	①	■	104 認知症の症状の早期発見に努め、介護支援専門員を通して医療機関等につないでいる。	
	6 健康管理、 衛生管理	① 利用者の体調変化時に、迅速に対応するための手順が確立している。	a	<ul style="list-style-type: none"> ■ 105 利用者の体調変化や異変の兆候に早く気づくための工夫をしている。 ■ 106 利用者の体調変化に気づいた場合の対応手順、医師・医療機関との連携体制を確立している。 ■ 107 職員に対して、高齢者の健康管理や病気、薬の効果や副作用等に関する研修を実施している。 ■ 108 体調変化時の対応について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。 ■ 109 利用者ごとに看護・介護職員が適切に服薬管理または服薬確認をしている。 ■ 110 健康状態の記録を行っている。 ■ 111 迎え時に、その日の体調等について、家族から情報を得ている。 ■ 112 利用開始時・終了時には、必ず健康チェックを行っている。 ■ 113 異変があった場合には、家族、医師、または介護支援専門員に連絡する体制を確立している。 	利用者は事業所到着後、バイタルチェック（呼吸、心拍、体温、血圧等）を受けており、事業所でもその日の健康状態を把握しサービス内容の可否を検討し当日の支援内容に反映している。迎え時の家族からの情報も含め職員間で朝礼時に共有し、昼食後の時間帯や緊急時にも随時、報告や相談をしている。
		② 感染症や食中毒の発生予防を行っている。	a	<ul style="list-style-type: none"> ■ 114 感染症や食中毒に対する予防対策、発生した場合の標準的な対応方法が確立されている。 ■ 115 職員の健康状態についてチェックし、インフルエンザ等の体調の変化を日常的に把握できる仕組みがある。 ■ 116 職員や職員の家族が感染症にかかった場合の対応方法が文書化されている。 ■ 117 職員に対して、インフルエンザ等必要な予防接種について、費用負担を支援し受けさせている。 	玄関、トイレ、ホール洗面台、浴室などに消毒液を常備し利用者や来訪者、職員などへの意識づけをし感染防止につなげている。法人として職員健康診断・インフルエンザワクチン接種の費用を予算計上し全職員が受け方が一に備えている。

評価対象	評価分類	評価細目	評価	着眼点	特記事項 (着眼点以外の取組等)
A	6	②		<ul style="list-style-type: none"> ■ 118 感染症や食中毒の発生予防・対応方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。 ■ 119 必要な手洗器・消毒薬等の設備機器等が設置されている。 ■ 120 家族、来館者への手洗いや手指消毒等の呼びかけをしている。 	
	7 建物・設備	① 施設の建物・設備について、利用者の快適性に配慮している。	a	<ul style="list-style-type: none"> ■ 121 建物・設備の点検を定期的に行い、問題点については改善するなど、快適性や安全を維持する取り組みをしている。 ■ 122 備品の点検を定期的に行い、常に故障や不具合、汚れなどがないように維持する取り組みをしている。 ■ 123 椅子・テーブル・ベッド等の家具、床・壁等の建物について、落ち着けるような雰囲気づくりに配慮している。 ■ 124 談話スペースを配置するなど、快適に時間を過ごせるよう配慮している。 ■ 125 利用者が思い思いに過ごせる工夫がされている。 ■ 126 ベッド、ソファ、畳の部屋など休息に適した環境の配慮がなされている。 	事業所内はホール(居間兼食堂)、静養室、浴室、トイレなどフロア配置が贅沢と思われるほど広くゆったりしている。利用者が思い思いに過ごせるように少人数がけのテーブルが置かれ、おしゃべりが楽しくて通っているという利用者からの声も多かった。昼寝用ベットも一人一台確保されており、利用日にはほぼ同じベットで午睡をされ気兼ねなく休めている。
	8 家族との連携	① 利用者の家族との連携を適切に行っている。	a	<ul style="list-style-type: none"> ■ 127 家族に対し、定期的および変化があった時に利用者の状況を報告している。 ■ 128 家族に対し、サービスの説明をしたり、要望を聞く機会を設けている。 ■ 129 家族との相談を定期的および必要時に行っている。また、その内容を記録している。 ■ 130 利用者の状況など報告すべき事項は、必ず家族に伝わるよう伝達方法を工夫している。 ■ 131 家族(主たる介護者)の心身の状況にも気を配り、必要に応じて介護支援専門員に報告している。 	デイサービスの利点を活かし送迎時の家族等との直接の係わりの中からコミュニケーションをとるようしており双方の意志統一をしている。生活相談員2名も日々の送迎に出かけ、自宅の様子や家族等の様子を把握し総体的に判断することで要望の実現や支援内容に活かしている。不定期ではあるが事業所の行事終了後には写真も豊富な「行事報告」を発行し事業所や利用者の活動ぶりを知らせている。毎年、家族との交流を目的とした食事会も開催しており家族との意思疎通を図っている。

評価対象	評価分類	評価細目	評価	着眼点	特記事項 (着眼点以外の取組等)
A	8	①		<ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="779 212 1576 268">■ 132 家族の介護負担が過重にならないよう、家族がどのような方法で介護・介助しているかを把握している。 <li data-bbox="779 300 1576 355">■ 133 家族（介護者）に対し、必要に応じ介護に関する助言や介護研修を行っている。 <li data-bbox="779 387 1576 507">■ 134 家族が必要とする情報提供（福祉サービス、介護に関するテキスト・資料、地域の家族会など）を行い、必要に応じて、介護支援専門員など専門職、関係組織につないでいる。 	